

# 第7回資源循環型施設検討委員会の協議内容について

資料 1 差替

テーマ	委員区分	委員の意見要旨	第7回委員会での整理又は事務局回答	広域連合及び市の考え方
1 ごみ組成分析について	住民	異常値の原因は人事異動等による職員の試料採取作業のバラつきが主たる原因なのか。	・作業方法の標準化が必要なため、改善に取り組んでまいります。	◎今後、試料採取方法について改善してまいります。 ◎事業系ごみの内容把握について、方法を検討してまいります。
	住民	事業系ごみは増加傾向にあり、異常値の一因ではないか。事業系ごみの組成分析も行ってもらいたい。	・事業系ごみの調査について検討してまいります。	
2 プラスチックの混焼とダイオキシン類の発生について	住民	東京都二十三区清掃一部事務組合のデータからは、プラスチック類の混入率が低い方が、ダイオキシン類濃度は低いという傾向は読み取れるのか。	・当該データでは、ダイオキシン類の濃度の傾向についての評価は困難と考えます。	◎引き続き、ごみの減量化、資源化の取り組みを強化し、燃やすごみの量を減らすことにより、地元の環境負荷低減に努めてまいります。
	学識	当該データだけでは、傾向は読み取れない。資料は「0」という記載だが、実測値には定量下限値や検出下限値があり「0」という数値はありえない。		
	学識	当該データは、プラスチック焼却開始によるダイオキシン類の組成を検討するデータであるが、変化があると言えるか。	○当該データでは、ダイオキシン類の種類の変化については、学術的に検討することは困難である。	
	学識	ごみ処理施設でのプラスチック焼却とダイオキシン類の発生に相関性があるとの前提でデータを探るのは危険な調査方法となる。	・資源循環型施設建設後も、3Rを基本としてまいります。	
	学識	ダイオキシン類の「発生」と「測定」は別であり、焼却炉内で「発生」しても、装置で処理された後の煙突出口での「測定」では、プラスチック混焼との相関性は低くなる。		
	住民	ダイオキシン類の発生と測定は違う。データの出し方を間違えると、逆に住民の不安を煽ることになる。住民としては、煙突から出る排ガスが有害でなければ納得する。		
	学識	プラスチック焼却を推奨はしないが、ダイオキシン類の発生を判断軸に議論すべきでない。	○塩素が含まれないプラスチックでも、塩素が含まれるごみと一緒に燃やすと発生する可能性がある。 ○塩素を多く含む塩ビの焼却は注意が必要であるが、適正に焼却管理を行えば、ダイオキシン類の発生量はかなり抑制できる。	
	住民	塩ビ以外のプラスチックでも焼却によりダイオキシン類が発生するのか。		
	学識	第5回検討委員会資料の別紙③-1のP2には、実験の前提となるデータが示されていない。誤解を与える記述なので、削除した方がよい。		
住民	「塩ビ投入量とダイオキシン発生量には相関関係はない」という単純なまとめは適当ではなく、削除すべきである。	○資料該当部分は削除する。	◎別紙③-1のP2を削除します。上田地域広域連合のホームページに掲載されている資料を差し替えました。	
3 事業系ごみの分別・減量化について	住民	市内の約7,600事業者のうちISO14001シリーズの取得事業者は39事業者とのことであり、ごみの分別に関心を持っている事業者が少ないと感じる。	・事業者と協議しながら、事業系ごみの分別・減量化に御協力いただけるような仕組みづくりを検討してまいります。	◎引き続き、事業系ごみについて、分別・減量化の推進を強化してまいります。
	住民	ISOについて、企業の立場からすると、財政的な面から実施しないこともある。ISOとは別に、ごみにしっかり焦点を当てて、取り組みを強化していくことが大事である。		
4 資源循環型施設の地域に果たす役割について	住民	台風19号の災害ごみの状況を見ると、県レベルの広域的な規模での検討をすべきである。	・県レベルでの災害協定等が必要となりますが、今後、県とも調整しながら検討してまいります。	◎今後も、地元の皆様と協議を行い、地域に貢献する施設を目指してまいります。
	住民	清浄園用地は水害の想定区域であり、単に「避難場所」とまとめるのではなく、災害の種類により整理すべきではないか。	・市の避難施設の指定も災害の種類別となっており、地震災害時等に電気供給が可能な避難施設として検討します。	
	住民	資源循環型施設では発電を実施するのか。	・焼却熱を利用した発電を実施する予定です。	
	学識	現在の清浄園機能の移転先である、下水道処理施設では水害の危険性は無いのか。	・移転先の南部終末処理場は、浸水想定区域であり、今後、長野市の事例等を参考に防災対策を検討してまいります。	
5 資源循環型施設検討委員会の協議結果について	学識	「3炉を基本とする」ことに、検討委員会としての理論づけや説明を明確にすべきではないか。	・地元対策連絡会の皆様との確認事項であり、この検討委員会では3炉を基本として検討してまいります。	◎資料2により御説明いたします。
	学識	「構成市町村の中で、ごみ排出量の多い上田市は」とした方がよい。「排出基準値より、さらに厳しい自主基準値」を「自主基準値を以下のとおり定める」とした方がよい。3炉構成について、「ごみ削減についても追従しやすい」という文章を付け加えた方がよい。	・いただいた意見を参考に、協議結果(案)を作成いたします。	
	住民	「はじめに」の部分に、検討委員会の立ち上げの経緯、理由を明記すべきである。		

↑ 委員区分: 選出区分を表わす。住民=対策連絡会代表、学識=学識経験者、行政=広域連合・上田市職員

↑「○」は委員会での整理、「・」は事務局回答を表わす